IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals

２０２３年９月　　ISSUE # ３９

IRPAとIAEAのMoUに署名するIRPA会長Bernad Le Guen氏とIAEA事務次長Lydie Evrard氏

目次

会長のブログ - 2
IRPA YGN 委員長の回想 - 4
IRPA YGN 新委員長を歓迎 - 6
モントリオール基金へのインタビュー - 7
IRPA国際ウェビナー - 9
SRP60周年 - １０
北欧放射線防護学会(NSFS)第19回大会の報告- １１
放射線安全文化と患者の安全- １３
関連学会の最新情報- １５
今後のイベント- １７

翻訳：中村秀仁、監修：佐々木 道也
この”IRPA会報”の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。
Translated by Hidehito Nakamura and reviewed by Michiya Sasaki.
This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

IRPAとIAEAが正式に覚書に調印したことをお知らせできることを大変嬉しく思います！

IRPAは世界中にネットワークを持つ素晴らしい専門家団体です。IAEAとの協力は、IAEA安全基準委員会や放射線安全機関間委員会（IACRS）の活動を通じて達成することができ、希望の光（Rays of Hope）イニシアティブの下で行われるIAEAの活動を支援していきます。またIRPAの専門家がIAEAの専門家ミッションに参加したり、eラーニングモジュールやトレーニングコースなど、安全文化に関するガイダンスや教育ツールの開発に参加したりすることを期待しています。トレーニング、スタッフのサポート、現地組織による関与は、医療機器の購入と密接に関係していなければなりません。安全文化は、協力、品質、安全を促進する地域環境がなければ繁栄できません。

IAEAはIRPAの国際・地域会議への参加と支援において重要な役割を果たしています。IAEAの支援は、IRPAの大会に若い専門家の参加を促し、放射線防護・安全分野における女性の活躍を推進する上で特に重要です。

Sigurður Magnússonsig氏、Bernard Le Guen氏、 Lydie Evrard氏, Hildegarde Vandenhove氏、 Miroslav Pinak氏とIRPA-IAEA覚書に署名

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

その週のハイライトは、IAEAとの覚書への署名と、その展開に関するMiroslav Pinak氏、Hildegarde Vandenhove氏とのさらなる話し合いでしたが、他の会議セッションと並行して会合に参加する機会でもありました。IRPAの家族である多くの友人と会い、アルゼンチンの放射線防護学会の代表者と朝食をとり、いくつかのサイドイベントに参加し、FORO（イベロアメリカ放射線・原子力規制機関フォーラム）とIRPAのつながりを新たにし、IAEAチームと訓練や支援訪問について話し合いました。

また、チュニジア放射線防護学会のLatifa Ben Omrane会長と意見交換する機会もありました。私たちは、現場での放射線防護活動をどのように評価するのが最善か、また、各国間の支援戦略をどのように立てるか、といった問題について話し合いました。このような観点から、アルジェリア、ヨルダン、モロッコ、パキスタン、チュニジアといった国々で希望の光イニシアティブのアンカーセンターを設立することは、アフリカや中東の地域的な医療発展や交流を促進する上で非常に重要となります。

電離放射線を利用した活動が、リスク管理文化の一部になるまでには、多くの作業が必要です。IRPAとIAEAの協力は、私たちの日常活動における放射線防護と安全性を向上させるための真の機会であると信じています。

Bernard Le Guen氏とフォロ（イベロアメリカ放射線・原子力規制機関フォーラム）のメンバー

チュニジア協会会長の**Latifa Ben Omrane**氏と**Bernard Le Guen**氏

IRPA YGN 委員長の回想

SYLVAIN ANDRESZ

IRPAヤング・ジェネレーション・ネットワーク（YGN）は、2018年5月にハーグで開催されたIRPA大会で正式に結成されました。Sylvain Andersz氏は、YGNの初代委員長に選出され、5年の歳月と数々の功績を残した後、退任することを決めました。

新委員長を紹介する前に、Sylvain氏に、IRPA YGNの創設者であり不可欠なメンバーであった時代を振り返ってもらい、そのハイライトを語ってもらいました。

あなた自身について、またあなたの職業上の経歴について少し教えてください。

私は、原子力工学のバックグラウンドを持っています。これまでのキャリアは（短かったとはいえ）、原子力防護評価センター（CEPN、フランス）で放射線防護とその関連業務を担当してきました。大まかには、ネットワーキングに関する特別なトレーニングは受けておらず（これだけでも1つの仕事／トレーニングコースになると思う）、社会的スキルも限られていました。

最初にIRPA YGNの一員になったきっかけは？

2018年以前の当初、IRPAのYGNはまったく存在しませんでした！IRPAの内部では2014年の時点で若い世代のネットワークを立ち上げたいという要望はありましたが、具体的なものは何も出てきませんでした。2016年、フランスの放射線防護学会（SFRP）がヤングクラブを再始動させ、私もその一員となりました。それは、そもそもYGNを立ち上げることが可能であることを私に示してくれたので、とても有益な経験となりました。2017年には、SFRPやUK SRPの若い同僚と協力して、「放射線防護における若い世代 」を対象とした国際調査を実施しました。調査の目的は、若い世代が何を必要とし、何を望んでいるのか、そしてIRPAのYGNに何ができるのかを知ることでした。アンケートへの回答は約250件と非常に多く、分析結果はIRPA YGNの設立を強く後押しするものとなりました。

入会当初、IRPA YGNがどのような存在になるのか想像していましたか？

未知の要素が多すぎました。当初は4人（オーストリア、フランス、日本、イギリス）しかおらず、ビデオ会議が今ほど普及していなかったため、電話でミーティングを行うなど、小規模なものでした。しかし2018年、IRPA地域大会で国際的な調査結果や設立間もないYGNの活動を発表したことで、事態は一気に加速しました。ウェブサイトとブログが開設され（それぞれIRPAとEUTERPに感謝）、規約と戦略アジェンダが作成され、IRPA ECの支援を受けていくつかの活動が開始されました。しかし、これらの活動が実を結び、IRPA YGNに対する認識が広まり、会員数が現在のように増加するまでには、まだ数年を要しました。

IRPA YGN 委員長の回想

SYLVAIN ANDRESZ

なぜ会長を引き受けようと思ったのですか？

当初、ほとんど組織はなく、委員長職もありませんでした（小さなユートピアのようでした！）。当時の原動力はUK SRPのPeter Bryant氏でした。彼はIRPA YGNの初期の推進力と中心となる原則を提供しました。Peter氏はまた、人々の支持を得ることに長けており、IRPA執行委員会（EC）との連携の取り方も心得ていました。当時、私は遅れをとっていると感じていたので、Peter氏は私にとり非公式なメンターでした。Peter氏が他の活動に専念するためにIRPA YGNから退いたとき、同氏は最初の選挙で委員長に応募するという私の決断をサポートしてくれました。

ネットワークが最近行った活動のひとつである映画コンテストは、どのようにして思いついたのですか？

Covid-19が大流行したとき、誰もが一度は「オンライン・イベント」用のプレゼンテーションを録画する必要に迫られてたことがあるでしょう。私は、それが2つの理由で嫌いでした。（1）苦手だった、（2）対面でのミーティングや交流（その頃にはとてもありがたいと思うようになっていた！）に取って代わることでした。私は、YGNのメンバーに何か面白いものを作ってもらうことで、YGN同士や各国の学会と人をつなげることができるのではないかと考えました。今にして思えば、これはかなり難しいことで、投稿の質の高さには驚かされました（編集部注：投稿作品はすべてIRPAのYouTubeチャンネルで見ることができます）。

IRPA YGNが長年行ってきた活動の中で、最も誇りに思っていることは何ですか？

私は、リーダーシップ委員会のメンバーが皆、IRPA YGNをそれぞれの関連学会やIRPAのEC会議、その他の国際的なイベントで発表し、IRPA YGNからインスピレーションを得て、それぞれの国内活動に活かしていることを最も誇りに思っています。若い世代のネットワークが彼らのネットワークになっているのです。

IRPA YGNに在籍中、こうしておけばよかったと思うことはありますか？

パスします・・・）

IRPAのYGN新委員長にアドバイスをお願いします。

私の最善のアドバイスは、新委員長にはたくさんのEメールを送信できるように準備し、非常に反応的になる覚悟をしてほしいということです。私は委員長をネットワークの仲介役と考えていましたが、誰にでもそれぞれの「スタイル」があり、新委員長はおそらく自分のスタイルを持ち込むでしょう。新委員長はIRPA YGNがどのように運営されているかを熟知しており、先日のAOCRP-6でもその管理能力と企画力を発揮しました。私はIRPA YGNの将来に大きな自信を持っています。

IRPA YGN 新委員長を歓迎

河野 恭彦

Sylvain氏が重責を担ったことは間違いありませんが、YGNの新たな委員長となる河野恭彦氏は、その責務を十二分に果たしてくれるでしょう！恭彦氏は日本保健物理学会の若手研究会のメンバーです。以下のセクションにおいて、同氏は、自身について、そしてYGNでの目標について少し語ってくれています。

簡単な紹介：

私の主な関心分野は、放射線防護、環境放射能、東海再処理工場周辺の低レベル廃液モニタリングです。特に以下の3つの研究テーマに注力しています：

1. 原子力発電施設周辺の環境影響評価と環境モニタリング
2. 環境モニタリング技術の開発
3. 原子力施設周辺の放射線作業員および一般公衆の内部被曝の評価

また、2016年にはIAEA海洋環境研究所の放射能測定研究所で海洋環境放射能モニタリング技術（特に海水中の放射性ストロンチウムのモニタリングのための分析法）の開発について研究しました。

2015年の半年間、日本保健物理学会（JHPS）で若手研究会の主査を務めました。東京電力福島第一原子力発電所事故の後、私はその後の2年間のほとんどをJHPS Q&Aサイトの運営委員会に参加し、オンライン上で一般市民を巻き込み、放射線防護に関する情報を共有することに費やしました。

IRPA YGN委員長としての抱負

IRPA YGNには、放射線防護分野の若手専門家が参加しています。その主な役割は、放射線防護および関連分野の学生や若手専門家のコミュニケーション、協力、専門能力開発を促進することです。私はIRPA YGNリーダーシップ委員会のメンバーとしてさまざまな会議に参加し、このネットワークの拡大に尽力してきました。

地域的であれ世界的であれ、放射線防護の未来は若い専門家の貢献にかかっています。アイデア、経験、業績を共有し、良好な関係を築くことは、このネットワークにとって不可欠です。従って、IRPAとその関連団体の支援を受けながら、地域的、国際的なイベントを今後も続けていきたいと強く願っています。これらの活動は、YGNの拡大とYGN諸国間の関係強化に役立つことでしょう。また、熱意あるIRPA YGNリーダーシップ委員会メンバーの協力を得て、事実に基づいたタイムリーな情報公開のあり方にも挑戦していきたいです。

モントリオール基金へのインタビュー

WHITNEY COULOR

モントリオール基金は、IRPAがIRPA大会への学生や若い専門家の出席を支援することで、世界の放射線防護を強化するために不可欠なプログラムです。Whitney Coulor氏もその一人で、2022年に開催されるIRPA北米会議(IRPA NA)に参加するため、モントリオール基金の支援を受けました。彼女の経験や、モントリオール基金が彼女にとってどのような意味を持つのか、インタビューしました。

モントリオール基金は、関連学会やその他の出資者からの寄付金のみによって支えられており、可能な限り寄付を行うことを強く奨励しています。

あなた自身について、また放射線防護におけるあなたの経歴や経験を教えてください。

結婚してもうすぐ7年になる34歳で、スピリットという名前の犬を1匹飼っています。オランダで医学物理学者としての研修中に放射線防護専門家の資格を取得しました。2016年、スリナム保健省に招待され、IAEAの会議に出席しました。会議の後、私はスリナムの保健省の放射線フォーカルポイントに任命されました。2020年には、オランダ放射線防護学会（IRPA関連学会）の一部であるスリナムおよびオランダ語圏カリブ海地域の支部長に選出されました。この支部のおかげで、専門学会を持たないカリブ海諸国の放射線防護専門家も、国際的な放射線防護コミュニティの一員となることが認められています。私は、カリブ海諸国の医療施設における放射線安全文化を促進する多くの活動に携わってきました。

IRPA北米大会に参加する目的は何でしたか？

- オランダ放射線防護学会とのコラボレーションの成功を出席者と分かち合い、他のIRPA関連学会が、専門職学会のない国のRP専門家のために同様のアプローチを検討するきっかけとなることを期待すること
- 支部のネットワークを広げること
- 放射線防護に携わる他団体との協力関係を構築すること

モントリオール基金へのインタビュー

WHITNEY COULOR

IRPAモントリオール基金は、これらの目標達成にどのように役立ちましたか？

IRPAモントリオール基金のおかげで、IRPA北米会議に直接出席することができ、さまざまな組織とつながり、意見を交換することができました。IRPA北米会議に出席した結果、汎米保健機構（PAHO）/世界保健機関（WHO）および保健物理学会（HPS）と協力して、英語圏のカリブ海諸国における放射線安全文化の促進に焦点を当てたプロジェクトを実施することができました。私たちは、HPSの医学部門の会長が指名した講師を招いてウェビナーを開催し、平均で約100名の参加者を得ました。このプロジェクトは大成功を収め、HPS会員からの要望もあり、ウェビナーはHPSウェブサイトの会員ページに追加されました。オランダとスリナムのコラボレーションのストーリーを共有できただけでなく、他のRP学会とのコラボレーションも確立できたわけです。

モントリオール基金についてはどのようにお知りになりましたか？

大会委員会がさまざまな地域の学会からの代表を目指していたため、カリブ海地域のRP専門家の発掘を手伝っていたオランダ人の連絡先を通じて、私は大会会長に連絡しました。私は、IRPA NA会議の執行委員会のメンバーになりました。当時の大会会長からモントリオール基金のことを聞き、旅行助成金を申請しました。

北米大会でのお気に入りの瞬間は？

社会活動や休憩時間には、他の参加者と交流することができました。講演はもちろん放射線防護に関するものばかりではありませんでしたが、楽しい会話であったことは間違いありません。組織委員会の支援も素晴らしかったです。講演者をサポートするのにとても役に立ちましたし、大会をスムーズに運営するためにあらゆることを考えてくれました。

放射線防護関係者にモントリオール基金の重要性をどのように説明しますか？

モントリオール基金がなかったら、多くのプロジェクトを実行することはできなかったでしょう。HPSと共同で実施したプロジェクトは、最終的にIRPAヨーロッパ地域大会で発表され、私は若手科学者・専門家賞にノミネートされました。IRPA NA会議への出席の成果でもあるこの仕事を発表することは、とても啓発的な経験でした。さらに、英語圏のカリブ海諸国の医療施設における放射線安全文化を促進するためのPAHO/WHO-HPSプロジェクトについての発表で、聴衆賞を受賞することができました。

IPRA国際ウェビナー

第3回IRPA国際ウェビナーが2023年7月13日に開催されました。保健物理学会(HPS)と連携して開催されたこのウェビナーでは、放射線分野における女性(WiR)と組織反応タスクグループ、そして若い世代ネットワーク(YGN)に焦点が当てられました。

このセッションには200人以上がライブで参加されましたが、参加できなかった場合でも、ウェビナーは録画されており、オンラインで視聴できます。録画をご覧になるには、ここをクリックしてください。

最初の2回のウェビナーを聞き逃した方、あるいは議論されたトピックを再確認したい方は、オンラインでもご覧いただけます：

- 第1回IRPAウェビナー（2022年7月）
- 第2回IRPAウェビナー（2023年1月）

SRP は"Radiation Protection Today "最新号で60周年を祝う

英国放射線防護学会（SRP）のフリーマガジン「Radiation Protection Today」最新号が刊行されました。ダイヤモンド・ジュビリーを記念し、過去60年間の放射線防護の変遷とSRPの進化を振り返る特集が組まれています。また、以下のような特集も組まれています：

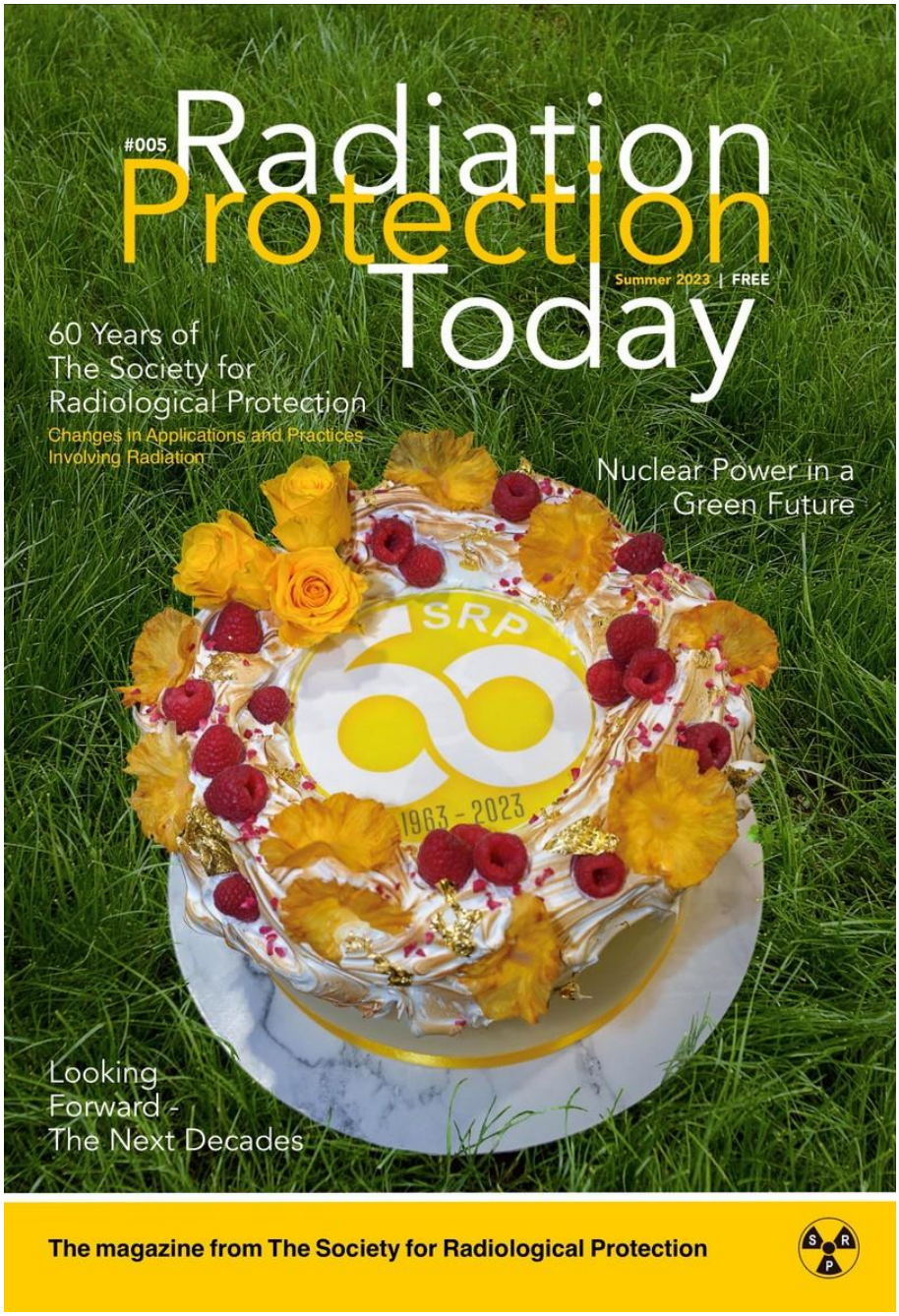
・職業被ばくの変化

・グリーンな未来における原子力

・規制と基準の変化

・将来の技術

SRPの皆様、この節目に到達したことをお祝いします！IRPA Bulletinの読者の皆様がこの号の「Radiation Protection Today」を楽しんで頂き、また誰かがこの豪華なケーキを食べて楽しんでくださったことを願っています。



北欧放射線防護学会(NSFS)第19回大会の報告

北欧諸国（デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン）のIRPA関連学会であるNSFSは、2023年6月5日から9日まで、スウェーデンのマルメで第19回大会を開催しました。テーマは「分かち合うこと、思いやること」で、これは放射線の潜在的な悪影響だけでなく、個人や社会にとっての恩恵についても知識を分かち合い、思いやることを意味します。この大会には11カ国から115人が参加しました。

初日はエクスカーションが行われ、参加者は、ルンドにある欧州核破砕中性子源（ESS）、ルンド大学バイオイメージングセンター（LBIC）、ルンドのいくつかの史跡、マルメにある緊急事態準備研究所を訪れました。

大会では、放射線防護のほとんどの側面を網羅する、21のセッションで合計58件の口頭発表が行われました。IRPA会長のLe GuenとICRP委員長のWerner Rühm氏が招待講演を行いました。ウクライナのVadim Chumak氏はウクライナのR/N状況について発表し、スウェーデン放射線安全局（SSM）のJan Johansson氏はウクライナでR/N事象が発生した場合にスウェーデンで起こりうる影響について講演しました。Per Seltborg氏（SSM）は、放射線専門家の今後の能力供給について報告しました。

Bo Lindell 講演では、フィンランド放射線原子力安全局のRitva Bly博士が「Trends in collective effective doses from radiological procedures」と題して講演しました。Jack Valentin氏と Sören Mattsson氏は、NSFSの歴史について発表し、NSFSの現会員、新規会員、会員候補のいずれにとっても貴重な話題となりました。その他のテーマは「ICRPによる放射線防護体系の改訂計画」と「放射線防護におけるAI」でした。

Ritva Bly博士によるBo Lindell 講演

写真提供：Jonathan Sundström氏 (NSFS)

北欧放射線防護学会(NSFS)第19回大会の報告

24の科学ポスターが会議室に展示され、特にポスターを強調するため、迅速ポスター発表セッションでも発表されました。さらに、スウェーデンの放射線防護研究全国委員会（NKSSF）、スウェーデン原子力技術研究学術イニシアティブ（SAINT）、スウェーデン放射線物理学学会、放射線生物学ラジオエコロジー学会、医学物理学会、若手科学者スウェーデン放射線研究学会（SWERAYS）など、複数のスポンサーや関連学会による発表も行われました。

プログラムと要旨はww.nsfs.orgで入手でき、一部の発表は2024年に『Radiation Protection and Dosimetry』誌の特集号に論文として掲載されます。

NSFS理事会は、NSFS会員の平均年齢がここ数年上昇していることに気がつきました。そのため、多くの若手研究者が大会に参加し、発表してくれたことを大変嬉しく思っています。

木曜日には、IRPA YGNのVictoria Grill氏とともにSWERAYSが企画したプログラム「Young Radiation Professionals Evening」が開催されました。NSFS総会は水曜日午後に開催され、最近の活動報告、財務諸表、NSFS規約の更新、2023-2027年の戦略計画の採択、新理事会および開催国（ノルウェー）の選出が行われました。また、放射線防護とNSFSへの貢献が認められ、Mette Oehlenschlæger(DE)、Rune Hafslund(NO)、Sigurdur Magnusson(IS)、Sören Mattsson(SE)、Jack Valentin(SE)の各名誉会員が新たに選出されました（下記写真参照）。

今後のNSFSの活動、そして2025年にノルウェーで開催される予定の次回大会が楽しみです。

Eva Forssell-Aronsson氏（NSFS会長、2019-2023）
Christian Bernhardsson氏（NSFS副会長、2019-2023）

放射線安全文化と患者の安全

患者の安全のために患者と関りながら放射線安全文化を促進する：
ナイジェリア北東部、マイドゥグリ大学教育病院（UMTH）からの視点

Flavious Bobuin Nkubli博士著

マイドゥグリ大学教育病院（UMTH）のあるナイジェリア北東部に関する報道は、10年以上にわたって、同地域の武力紛争に起因するテロリズムの話題で占められてきました。しかし最近、この地域、特に首都マイドゥグリに平和が戻ってきたという新たな物語が生まれつつあります。UMTHには多くの前向きな成果があり、本稿ではそのいくつかを紹介します。

UMTHは現在、インターベンショナル・ラジオロジストのコンサルタントであるAhmed Ahidjo教授のリーダーシップの下に運営されています。1983年7月23日に設立されたUMTHは、現在1,200の病床を有し、放射線学およびインターベンショナル・サービスを完備しています。さらに最近では、放射線治療と腫瘍学サービスが追加され、2台の最新式リニアックとブラキセラピー装置が設置され、地域内外のがん患者に希望をもたらしています。UMTHでは放射線を利用したこのような広範なサービスを提供しているため、包括的な放射線安全文化が必要であることは明らかです。

ナイジェリア連邦保健省からの指令に従い、UMTHは、2023年の世界患者安全デー（WPSD）を「Engaging Patients for Patient Safety」というテーマで祝いました。ナイジェリアにおける放射線安全文化の促進への取り組みの一環として、病院経営陣は、WPSDの祝賀期間中に放射線安全に関するプレゼンテーションを行う提案を承認しました。このイベントの講演者として2人のプレゼンターが選ばれました：赤十字国際委員会（ICRC）の外科医（であるMichael Mwandri医師と、マイドゥグリ大学の上級講師でありUMTHの名誉臨床放射線技師兼放射線防護専門家でもあるFlavious Bobuin Nkubli医師です。Mwandri博士は「Patient Safety in Trauma Surgery: ICRC Approach」についてプレゼンテーションされ、Nkubli医師は「Engaging Patients for Patient Safety: A Radiation Safety Perspective」について講演されました。

マイドゥグリの病院経営陣と**ICRC**のメンバーらと講演者

放射線安全文化と患者の安全

ナイジェリア放射線防護学会（NSRP）を代表する医療現場における放射線安全文化のIRPAタスクグループのメンバーであるFlavious Bobuin Nkubli博士のプレゼンテーションでは、ナイジェリアの医療現場における放射線安全文化の必要性に焦点を当て、WHOの世界患者安全行動計画と放射線安全との関連性が強調されました。また、現在利用可能なIRPAツール、放射線安全文化のための指導原則、放射線防護における一般市民の参加などを利用することで、放射線安全という文脈の中で、どのように患者を参加させ、力を与え、患者の声を高めることができるかを説明されました。このほか、IAEAの放射線安全文化の特徴に関する話題、WHOの小児画像診断における放射線リスクの伝達のための手段について紹介されました。

この公開講座には、病院関係者や一般市民が参加し、中にはバーチャルで参加した人もいました。セッションは洞察に富み、特に放射線の安全性に関する質疑応答は魅力的でした。会議は、チーフ・メディカル・ディレクターを代表する医療諮問委員会委員長のIbrahim Sanusi博士の閉会の辞で幕を閉じました。同氏は、患者の安全というテーマへの豊かな貢献に対する講演者全員と、このイベントの参加者全員に感謝の意を表しました。

講演者：Michael Mwandri博士（左）とFlavious Bobuin Nkubli博士（右）

放射線防護・民間防衛部門の科学DAY

MOHAMED GOMAA

2023年、エジプト原子力庁（EAEA）はこれまでに44の科学デイを開催し、EAEAの若手職員と上級職員に最新の科学的研究についてお知らせました。

背景を説明しますと、EAEAは4つの科学センターで構成されています。そのうち2つはカイロの東35キロに位置するインシャッスにあり、残りの2つはカイロにあります。インシャッスにある原子力研究センターは12の科学部門からなり、ホットラボセンターは9つの科学部門からなります。カイロでは、国立放射線研究技術センターが14の科学部門、原子力・放射線安全研究センターが9の科学部門で構成されています。各施設には放射線防護部門も2つあります。

EAEAの研修活動の一環として、エジプトの大学や研究所の学部生1900人が、各学科で1～2週間の研修を受けています。これらの研修コースでは、原子力の平和利用に焦点を当て、講義と実習が行われます。

放射線防護・民間防衛部門（RP＆CD）主催の最新の科学デイが、2023年7月9日にインシャスで開催されました。開会の司会は、EAEA副議長で原子力研究センター長代理のHeyda Kamel教授が務められました。同氏はスピーチの中で、様々な部門からの参加者を歓迎しました。また、現部門長のSameh Othman教授も、全スタッフと他の参加者を歓迎しました。

原子力研究センター長であるHedaya Kamel教授と放射線防護部スタッフ

RP＆CD科学デイの議長：Sameh教授、Hedaya教授、Badawy教授

放射線防護・民間防衛部門の科学デイ

MOHAMED GOMAA

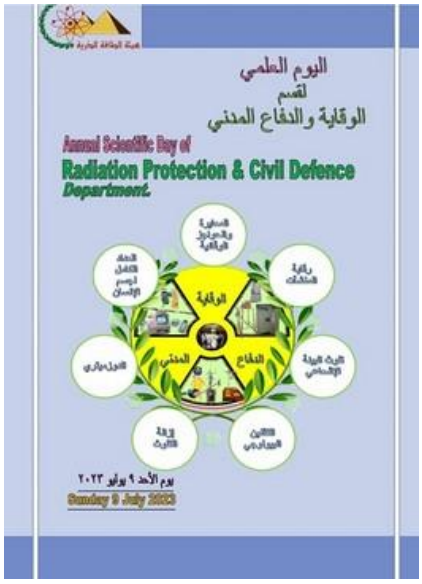
この日の最初のプレゼンテーションは、Wasfi Abdulmalik教授によるもので、1957年から2023年までの同部門の歴史的功績の一端が紹介されました。（この寄稿はIRPA会報33号に掲載されたものです）。続いて私自身のプレゼンテーションを行い、1960年から2023年までのエジプトにおける放射線防護法の歴史を振り返りました。

3つ目のプレゼンテーションは、私の同僚であるMourad Aziz教授によるもので、放射線防護基準の作成における国際機関の役割について議論されました。続いて、Talaat Ghazy准教授が放射線防護コンサルテーション・サービス・プロジェクトの概要について発表されました。このプロジェクトは1988年に私が始めたもので、現在も進行中です。その活動には、EAEAの施設と、サービスやコンサルティングを求める利用者のための医療施設および非医療施設の両方が含まれます。

休憩を挟んで行われた第2セッションでは、さらに4つのプレゼンテーションが行われました。Taha博士はホールボディカウンターユニットの活動について、Hanaa博士は校正活動について、Hoda教授は生物学的モニタリングについて発表されました。最後の発表はSoliman教授によるもので、タイトルは「Cesium Miro-Particles (CsMPs): Radioactive Emissions with Special Characteristics」でした。

会議の一環として、RP＆CD組織委員会は参加者全員に写真と以下の情報を掲載した小冊子を配布しました：

- 部門のビジョンと戦略計画
- 部門の歴史に関する簡単なメモ
- 1960年から2023年までの部門長リスト
- 放射線管理部門、外部・内部線量測定部門、放射線分析部門、校正部門、廃棄物処理・除染・輸送部門、環境モニタリング部門の活動に関する簡単なメモ。
- 放射線防護相談・サービスプロジェクトの活動情報



放射線防護・民間防衛部門の年間科学DAY冊子の表紙

科学DAYの参加者と講演する**Talaat Ghazy**准教授

今後のイベント

RADIATION HARMONIZATION:
STANDING UNITED FOR PROTECTION

IRPA 16

7-12 July, 2024 • Orlando, Florida USA
Rosen Shingle Creek

FIRST ANNOUNCEMENT

IRPA16プログラム委員会は、アブストラクト提出期限を2023年12月1日まで延長することを決定しました。IRPA16プログラム委員会のコアグループは2024年2月初旬に会合を開き、プログラムに関する最終決定を行う予定であるため、アブストラクト締切が再度延長される可能性は低いです。IRPA 16は「Radiation Harmonization: Standing United for Protection」をテーマに、2024年7月7日～12日にフロリダ州オーランドで開催されます。皆様がこの素晴らしい機会を利用してIRPA16に参加され、国際的な仲間たちと共通の問題や解決策について議論されることを願っています。

詳細とアブストラクトの提出はIRPA16ウェブサイトをご覧ください。

Kevin Nelson博士、CHP
IRPA大会担当副会長
IRPA16組織委員会委員長

今後のイベント

Second Announcement October 5, 2023

The purpose of this Young Generation Network (YGN) Workshop is to encourage the active engagement of young professionals with Radiation Protection and promote their personal and social interaction.

INTERNATIONAL YGN WORKSHOP ON CHALLENGES OF RADIATION PROTECTION 2023

Organized by:
Japan Health Physics Society (JHPS)
Young Researcher's Association of JHPS (JHPS YRA)

Co-organized by:
International Radiation Protection Association (IRPA)
IRPA Young Generation Network (IRPA YGN)

Supported by:
International Commission on Radiological Protection (ICRP)
Japanese Radiation Research Society (JRRS)

November 8, 2023
Grand Nikko Tokyo Daiba
TOKYO, JAPAN

Venue & Time

Akatsuki (29F)

Please come here by 13:55

Free of charge
if you join ICRP2023, JHPS annual meeting, or JRRS annual meeting.

You can join the workshop if you are:
40 years old or younger;
OR
defined as a "young" researcher in your national association / society.

Program

14:00-15:30	✓ Introduction of YGN activity in each country
16:00-17:30	✓ Self-Introduction ✓ Group work for future collaboration

Registration here!

Registration deadline: **October 20**
(Application will be closed when the capacity is reached.)

Contact: jhpsygn2023@gmail.com

ニュースをお寄せください！

共有したいニュースがありますか？cop@irpa.net までお送りください。IRPA NewsとIRPA Bulletinでご紹介します。会報の記事は通常200～300字と画像です。

学会スポットライトでは、関連学会からの最新情報を随時募集しています。あなたの学会の近況をお知らせください。会合、会議、一般的なイベント、または良いニュースはいつでも歓迎です！

IRPA出版委員会

IRPAコミュニケーションオフィサー: Dave Niven
会報編集部: Dave Niven
関連学会リエゾン: Michèle Légaré
ウェブサイト管理者: Dave Niven & Chris Malcolmson;
ソーシャルメディアマネージャー: Sven Nagels & Chris Malcolmson;
メディアレビュアー: Sven Nagels, Young-Khi Lim & 藤田博喜;
プロシーディングスアドバイザー: 荻野晴之

Bernard Le Guen氏、**IRPA**放射線防護における女性**TG**委員長の**Marina di Giorsio**氏、アルゼンチン加盟学会の**Marcela Ermacora**氏